

対流性点エコーの寿命は、短いとされている。

しかし、冬季海上に発生する点エコーの寿命は長く、これは常に海面からの熱補給があって、対流が維持されるものと考えられる。このことは、冬の季節風の卓越する時の日本海側の降雪は、主として海上で発生した点エコーによるものであるという想定の下付けとなるものであろう。

### 5. むすび

冬季海上に発生する対流性点エコー群については、その発生域、発生条件さらに海水温との関係など、従来海上の十分な資料が得られないままに、推論の域を出ない部分が多くあったと思われる。

その意味で、啓風丸による、レーダー高層観測を含めた、日本海定点の観測は貴重なものである。今回はこの観測事実の単なる解析に止まったが、点エコー発生の基本解明に少しでもつなげていければ幸いである。

最後に、資料の提供に御協力をいただいた、啓風丸および気象庁海洋課の諸兄に厚くお礼申し上げます。

### 文 献

- 1) 川本敏夫, 宮沢清治, 藤田兼吉, 1963, 北陸不連続線による豪雪について, 気象研究ノート, 14, 56-70.
- 2) 久保田効ほか, 1972, 啓風丸による日本海観測の結果, 測候時報, 39-6, 259-275.
- 3) 西田博雄, 1972, 日本海の海上気象, 熱収支, 気象庁技術報告, 80, 46-62.
- 4) 尾形 哲, 1968, 日本海北部における冬季の大気下層状態について, 気象庁技術報告, 66, 131-136.
- 5) 佐藤幸夫, 1971, 海上に発生する点エコー群, 北陸地方予報作業指針, 1, 1.2b-3-1.2b-11.
- 6) 立平良三, 1968, 雪エコーの発生, 移動, 気象庁技術報告, 66, 320-328.

## 国際地球電磁気学会・超高層物理学協会

### 1973年学術総会のお知らせ

The Second General Scientific Assembly of the International Association of Geomagnetism and Aeronomy (IAGA) が下記のとおり今秋日本で開催されます。内容は9の Commission と19の Symposium より成り、地球電磁気学及び超高層物理学全般にわたる幅広い topics と discussion が予定されておりますので関係各位の御参加を期待します。

期 間：1973年9月9日～21日

場 所：京都国際会議場

論文 abstract 提出期限：6月10日

会議参加登録期限：7月31日

尚、この会議についての問合せ先は下記のとおりです。

(〒106) 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議、国際地球電磁気学・超高層物理学協会1973年学術総会組織委員会

(Tel) 403-6291 内線 255

または、

組織委員会幹事 福島 直

(〒113) 東京都文京区弥生 2-11-16

東京大学理学部地球物理研究施設

(Tel) 812-2111 内線 7511